

橋梁研新聞

大阪市大

令和3年
12月発行
忘年会号

最近の研究室

4月に山下様（ヒノデホールディングス）が、10月には浅野様（西日本高速道路）、吉岡様（駒井ハルテック）が社会人ドクターに入学しました。また、学部4年生6人、研究生2人が新たに加わり、総勢27人の大所帯となりました。感染症拡大防止に努めながら工夫して、日々、研究室にて研究活動を続けています。現在は、鋼構造論文集の執筆、卒業論文、修士論文に関する実験、解析を精力的に行っています。また、令和3年に後期博士課程を修了された杉本さんは、令和4年1月1日付で岩手大学理工学部システム創成工学科社会基盤・環境コースの助教に就任されました。これからの活躍を楽しみにしております。



第一回橋梁研ゼミ(4/14,オンライン)



杉本さん送別会 (12/14)

橋梁業界の出来事2021

日本

- 3月 熊本地震より5年 新阿蘇大橋が開通
- 8月 東日本大震災復興の象徴気仙沼湾横断橋が開通
- 10月 NEXCO西日本 中国道リニューアル工事開始
- 10月 和歌山県で六十谷水管橋が落橋

世界

- 5月 メキシコシティの地下鉄12号線の高架橋が崩落
- 10月 ボツワナとザンビアを結ぶカズングラ橋が開通
- 10月 中国江蘇省無錫で国道高架橋が崩落

研究プロジェクト

当て板補修・補強

鋼桁下フランジ 当て板補強に関する曲げ載荷試験を行いました。本試験は、ボルト本数および配置、当て板面積、当て板厚が当て板と下フランジの荷重分担へ与える影響について検討しています。



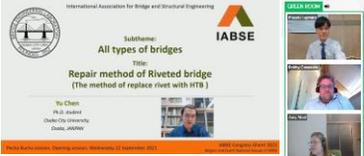
合成床版 底鋼板継手部の設計

鋼コンクリート合成床版の底鋼板継手部の曲げ疲労耐久性を把握するための試験です。

海外活動

9月22日、24日にオンラインにて、IABSE Congress 2021が開催され、後期博士課程1年の藤原君、前期博士課程2年の松井君の3名が参加しました。

3人とも初めての英語での発表でしたが世界のエンジニアへの発表、議論は非常に刺激的な経験となりました。



発表の様子

鑄鉄床版接合部設計

日之出水道機器株式会社が所有する佐賀県の研究所（総合センター）にて、鑄鉄床版の実用化に向けて、鑄鉄床版と主桁の接合部における力学的挙動を検討するため、鑄鉄床版・主桁間の押し抜きせん断試験を行いました。



本研究では、底鋼板継手部に片面施工を可能にするスタッドボルトを用いているほか、頭付きスタッドを設けた場合のすべり挙動や合成効果に及ぼす影響について検討しています。



2021年度土木学会 全国大会年次学術講演会

9月9日〜10日にオンラインで開催され、本研究室から林先生、博士5名、修士16名の計22名が参加し、発表を行いました。林先生、博士課程3年生の白井君、修士課程2年生の中本君が優秀賞を受賞しました。



2021年度土木学会 関西支部年次学術講演会

5月23日に修士1年生5名が投稿をした論文のプレゼンテーションをオンラインで行いました。福辻さんが見事、優秀発表賞を受賞しました。

2月12日に後期博士課程の杉本さん「橋梁構造物のための非突出型エンドプレート接合部の設計法に関する研究」と社会人ドクター有村様「腐食劣化の生じた鋼桁橋の橋梁システム冗長性を考慮した合理的な耐荷性能評価手法に関する研究」、8月6日に郎さん「新型高力ファスナーを活用した鋼橋の補修・補強技術に関する研究」の博論公聴会がオンラインとオフラインを併用して行われました。

ぶら土木

大学公認サークルとして活動している土木構造物見学サークル「ぶら土木」も今年で4年目となりました。今年度は、「新名神高速道路、成合第一高架橋工事」にて片持張出架設工法を橋面に登り、見学させていただきました。また、震災資料保管庫での阪神淡路大震災で被災した構造物を見学させていただきました。実際に現場を訪れることで、大変勉強になりました。ぶら土木サークルでは、現場などの見学先を探しています。お進めの場所がありましたら是非、ご紹介下さい。



新名神高架橋工事

震災資料保管庫

就職先(令和4年4月入社)

三菱インフラシステム、阪神高速道路、阪神高速道路先進技術研究所、首都高速道路、川田工業

